

授業科目 高次脳機能障害学

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	言語
今村 徹		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	各1計2	時間数	計45
【概要】					
<p>ヒトの脳は一次的な運動・感覚機能だけではなく、日常生活や社会生活をおくるために必要な記憶、注意、計算、思考、判断、学習などの機能を担っている。これらを認知機能（または高次機能）と総称する。本科目では成人の認知機能障害の診断と評価を学ぶ。現在の臨床現場では、急性期、慢性期を問わず驚くほど多数の患者が、さまざまな認知機能障害を診断・評価されないまま、不十分な治療・看護・介護・療養環境に甘んじている。認知機能障害を診断・評価できる人材のニーズは大きく、言語聴覚士も認知機能障害全般のコンサルテーションを受ける専門職（神経心理士）としての役割を求められる。本科目はそのような臨床現場のニーズに応えるための入門講座である。</p>					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な認知機能障害の症候学とその機序を理解する。 2. 患者の認知機能障害を診察して症候群として把握できる。 3. 把握した認知機能障害を適切な検査・テストで描出できる。 4. 患者の認知機能障害に関する情報をまとめ、提示することができる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	<p>(A) 学習の主題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の主題をとりあげる <p>どの主題においても診察→検査→解釈という認知機能障害の評価の流れを重視する。</p> <p>神経心理学の方法論</p> <p>健忘症候群</p> <p>前頭葉症候群と遂行機能障害</p> <p>右半球症候群</p> <p>失語・失行・失認</p> <p>(B) 学習方法</p> <p>各主題について以下の形式のいずれか、または両方の形式の授業を組み合わせる行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生の小グループによる課題発表（ゼミ形式）：計15回 2) 教員による講義：合計8回 				担当教員：今村 徹
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		神経心理学入門	山鳥重	医学書院	1885・6,400円
		脳損傷の理解：神経心理学的アプローチ	鈴木匡子訳	MEDSI	1993・5,800円
参考書		脳からみた心	山鳥重	日本放送出版協会	1985・970円
		事例で見る神経心理学的リハビリテーション	鎌倉ら訳	三輪書店	2003・5,600円
		高次脳機能障害学	石合純夫	医歯薬出版	2003・4,200円
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
課題発表に合格した学生にレポートを課す。提出されたレポートの評価点を最終の成績評価とする。		教員による講義部分が『高次脳機能障害学』、学生の小グループによる課題発表部分が『高次脳機能障害学演習』に該当する。具体的なスケジュールは別途通知する。			